

# 問題：①「過去に発生した人身・人為事故事例」 ●人身（電工）

## ■項目：低圧分岐盤養生作業における感電事故

低圧盤養生作業における感電において不適切なものを1つ選択して下さい。

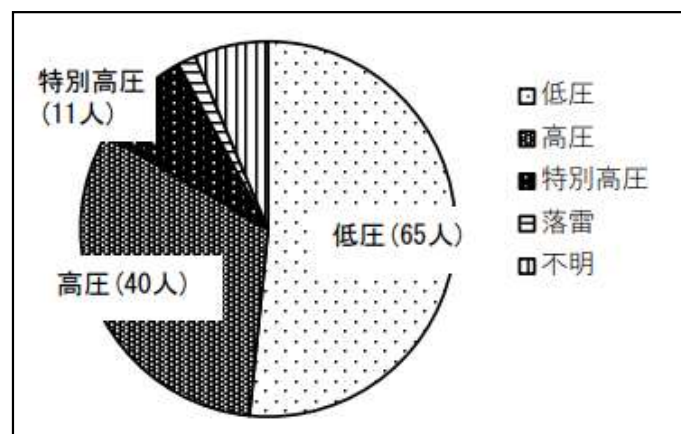
- 1) 現用機器架内の養生作業は危険工程であることから、一人体制とならない作業配置とした
- 2) 絶縁手袋をしていれば、多少肌が露出していても問題ないと思い、活線付近で作業を実施した。
- 3) 作業箇所が低圧の場合であっても注意を怠らず作業を実施した。

## ■項目：低圧分岐盤養生作業における感電事故

正解:2) 絶縁手袋をしていれば、多少肌が露出していても問題ないと思い、活線付近で作業を実施した。  
が不適切です。

絶縁手袋を装着していても**肌が露出している部分があれば、露出部に活線部が触れ感電**することがあります。活線付近で作業を行う際には、感電の危険が生じないように、**適切な絶縁用保護具を肌の露出が無い様に着用**してください。また、作業時は長袖作業服で腕まくりせず、腕時計、金属製筆記用具、作業ズボンベルトの金属製バックル等は、必ず身体から外して作業してください。

電気は低圧だからといって油断してはいけません。実際に厚生労働省の死亡災害データベースから特別高圧・高圧より**低圧での感電死亡者が高い**というデータがあります。また、小さな電流でも人体に電流が流れたとき、火傷、死亡といった重大な結果につながります。もしも自分が感電した場合、軽傷だと思っても、すぐに病院に行きましょう。内蔵の損傷や感電の衝撃による外傷、筋肉の急激な収縮により脱臼や骨折を起こしている可能性もあります。



電圧別の感電死亡者数（平成20～29年）

出典

感電死亡災害の現状分析とリスクアセスメントの試み:

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/josh/advpub/0/advpub\\_JOSH-2021-0006-CHO/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/josh/advpub/0/advpub_JOSH-2021-0006-CHO/_pdf/-char/ja)

# 問題：② 「過去に発生した人身・人為事故事例」●人身（電保）

## ■項目：脚立からの転落事故

脚立の使用方法で正しい内容を選択して下さい。

- 1) 作業箇所の真下に脚立を設置して作業した。
- 2) 脚立の踏みさんを作業面に対して平行に配置して作業した。
- 3) 踏みさんを背にして作業した。

## ■項目：脚立からの転落事故

正解：2) 脚立の踏みさんを作業面に対して平行に配置して作業した。

が正解です。

垂直に配置すると脚立の倒れやすい向きでの作業になるため、**平行**にして設置してください。。

はしごや脚立作業では、骨折などの重篤な災害が多数発生しています。また、負傷箇所によっては死亡に至ります。

脚立の使用に際し、**脚立作業禁止11項目**を定めていますので、項目内容を理解して作業願います。

また、ローリングタワー等を使用するなど、はしごや脚立の使用を回避することも検討願います。

脚立作業時は作業前ミーティング時に禁止項目を確認しよう



: 一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会（I T E A）が定める脚立作業の鉄則8禁

# 問題：③ 「過去に発生した人身・人為事件事例」●人身（FM）

## ■項目：凍結した山道における転倒事故

冬季の積雪や路面凍結による転倒災害を防ぐ行動として、もっとも**不適當**なものはどれか？

- 1) 山上無線中継所での作業予定日が大雪予報だったため、作業日を変更した。
- 2) 凍結したビルの屋上を移動して作業を実施するため、事前に水・油用の耐滑靴を用意した。
- 3) 積雪予報を確認したため、敷地内の駐車場や屋外通路の安全確保のために、融雪剤を散布した。

## ■項目：凍結した山道における転倒事故

正解：2）凍結したビルの屋上を移動して作業を実施するため、事前に水・油用の耐滑靴を用意した。

が、もっとも不適當です。

解説：

- 1）気象情報を活用してリスク低減を行うことは、有効な手段です。気象情報を迅速に把握する体制の構築をお願いします。
- 2）一般的な耐滑靴は、水や油などで足元が不安な場所に適した靴です。氷上用の耐滑靴とは構造が異なるため、作業に適した安全靴を準備しましょう。
- 3）敷地移動中に凍結により転倒すると、最悪の場合、頭部を打ち死にいたる可能性があります。安全確保のために、融雪剤を散布することは、有効な手段です。敷地状況等にあわせて検討をお願いします。

【維持管理業務に伴う冬季の路面凍結による転倒事故事例】

2018年 1月26日

屋上の空調点検のため、屋上を歩いていた際、屋上床が凍っていたため、滑って転倒した。

2022年12月14日

無線中継所の漏水養生箇所の確認と補修にて、無線中継所内での作業完了後、作業員が下山途中に凍結した山道で足を滑らせ転倒した。

# 問題：④ 「過去に発生した人身・人為事故事例」●人身（建築）

## ■項目：水防対策工事での型枠資材荷崩れによる負傷

型枠荷下ろし作業における不適切な対応を1つ選んでください。

- 1) 荷崩れの恐れがあるため、立ち止まり、その周囲の立入禁止措置を実施し、作業手順を再検討した。
- 2) 資材の固縛状況を現場で確認せず、荷下ろし作業を行った。
- 3) 型枠の特性に応じた固縛方法など、取扱い上の注意点を型枠メーカーと検討した。

## ■項目：水防対策工事での型枠資材荷崩れによる負傷

正解：2）資材の固縛状況を現場で確認せず、荷下ろし作業を行った。

が不適切です。

荷下ろし作業では、打ち放し型枠を固縛しているPPバンドの緩みや切断のリスクがあります。

必ず資材の固縛状況を確認し、荷下ろし作業を行うようにしてください。

また、通常の打ち放し型枠より表面が滑りやすい型枠（ステルナ型枠：地球資源と環境を考慮した転用性の高い型枠）等を使用する際は、その特性に応じた固縛方法など、取扱い上の注意点を検討してください。

荷下ろし作業を行う際は、荷崩れを想定し  
立ち入り禁止区域を設定する等、事前に作業エリアを検討することも重要です。

※型枠資材に限らず、荷受け時に荷崩れの恐れがある状況が確認された場合は、必ず立ち止まり、  
作業手順を再検討してください。